

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,809	t-CO ₂
（温室効果ガス削減換算排出量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		2,809

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）					%		%	

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
原単位当たりの排出量	43.05	kg-CO ₂ / m ²	41.76	kg-CO ₂ / m ²	37.96	kg-CO ₂ / m ²		kg-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）			3.0 %		11.8 %		%	
原単位当たりのみなし排出量						kg-CO ₂ / m ²		kg-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）					%		%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

事務所等の空調設備の整備、使用に関する注意喚起等を徹底したことにより、電気及び灯油の使用量が削減された。
--

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。
 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践【冷暖房】	<ul style="list-style-type: none"> ・クールビズ・ウォームビズの推奨 ・ブラインドの活用 ・設定温度（冷房28℃、暖房19℃）を徹底する。 ・空調使用時の扉、窓の不必要な開放を避ける。 ・空調内機フィルター清掃を使用者に定期的に促し、空調効率の低下を防ぐ。 ・空調用冷凍機の冷水温度は外気温度を考慮し、7～10℃に管理する。 	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・クールビズ・ウォームビズの推奨 ・ブラインドの活用 ・設定温度（冷房28℃、暖房19℃）を徹底する。 ・空調使用時の扉、窓の不必要な開放を避ける。 ・空調内機フィルター清掃を使用者に定期的に促し、空調効率の低下を防ぐ。 ・空調用冷凍機の冷水温度は外気温度を考慮し、7～10℃に管理する。
省エネルギー・省資源の行動の実践【照明】	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み及び不在時の不必要な照明の消灯を実施。 ・人感センサーの設置により、省エネに努める。 	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み及び不在時の不必要な照明の消灯を実施。 ・人感センサーの設置により、省エネに努める。
省エネルギー・省資源の行動の実践【OA機器】	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンや事務機器の購入時は、待機時の消費電力が少ない省エネルギー機器を選定。 ・席を長時間外す際は、パソコンをこまめに停止するほか、スリープモードを活用する。 	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンや事務機器の購入時は、待機時の消費電力が少ない省エネルギー機器を選定。 ・席を長時間外す際は、パソコンをこまめに停止するほか、スリープモードを活用する。
省エネルギー・省資源の行動の実践【燃焼設備】	<ul style="list-style-type: none"> ・排ガス温度を測定し250℃以下に保ち燃焼効率の低下を防ぐ。 ・適切な燃焼に努め（都度点検、調整）、ボイラー効率の低下を防ぐ。 ・適切な蒸気圧力を保ち（0.5～0.7Mpa）、ボイラー効率の低下を防ぐ。 ・スチームトラップの定期点検・交換を実施し、ドレン回収率の低下を防ぐ。 ・定期整備・点検により、ボイラー効率の低下を防ぐ。 	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・排ガス温度を測定し250℃以下に保ち燃焼効率の低下を防ぐ。 ・適切な燃焼に努め（都度点検、調整）、ボイラー効率の低下を防ぐ。 ・適切な蒸気圧力を保ち（0.5～0.7Mpa）、ボイラー効率の低下を防ぐ。 ・スチームトラップの定期点検・交換を実施し、ドレン回収率の低下を防ぐ。 ・定期整備・点検により、ボイラー効率の低下を防ぐ。
省エネルギー・省資源の行動の実践【給気設備】	<ul style="list-style-type: none"> ・保温ジャケットを設置し、無駄な放熱を削減させる。 ・蒸気配管の点検・整備を実施し、ボイラー効率低下を防ぐ。 ・スチームトラップの定期点検・交換を実施し、ドレン回収率の低下を防ぐ。 	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・保温ジャケットを設置し、無駄な放熱を削減させる。 ・蒸気配管の点検・整備を実施し、ボイラー効率低下を防ぐ。 ・スチームトラップの定期点検・交換を実施し、ドレン回収率の低下を防ぐ。
省エネルギー・省資源の行動の実践【加熱設備等】	<ul style="list-style-type: none"> ・給湯温度を貯湯槽出口5.5℃～6.0℃に管理し、エネルギー使用の合理化に努める。 ・保温ジャケットを設置し、無駄な放熱を削減させる。 ・スチームトラップの定期点検・交換を実施し、ドレン回収率の低下を防ぐ。 ・暖房用熱交換器温水温度は外気温度を考慮し、熱交換器出口で5.5℃～6.0℃に管理する。 ・制御設備（計測及び指示計、電動弁、圧力系等）の点検・整備を定期的実施し、空調効率低下を防ぐ。 	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・給湯温度を貯湯槽出口5.5℃～6.0℃に管理し、エネルギー使用の合理化に努める。 ・保温ジャケットを設置し、無駄な放熱を削減させる。 ・スチームトラップの定期点検・交換を実施し、ドレン回収率の低下を防ぐ。 ・暖房用熱交換器温水温度は外気温度を考慮し、熱交換器出口で5.5℃～6.0℃に管理する。 ・制御設備（計測及び指示計、電動弁、圧力系等）の点検・整備を定期的実施し、空調効率低下を防ぐ。
省エネルギー・省資源の行動の実践【空気調和機】	<ul style="list-style-type: none"> ・空気調和機及び給気棟フィルター清掃を定期的実施し、空調効率低下を防ぐ。 ・空気調和機内の制御設備（計測及び指示計、電動弁、圧力系等）の点検・整備を定期的実施し、空調効率低下を防ぐ。 	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・空気調和機及び給気棟フィルター清掃を定期的実施し、空調効率低下を防ぐ。 ・空気調和機内の制御設備（計測及び指示計、電動弁、圧力系等）の点検・整備を定期的実施し、空調効率低下を防ぐ。
省エネルギー・省資源の行動の実践【その他】	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドコントローラーにより時間帯の電力使用を監視し、負荷平準化を図る。 	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンドコントローラーにより時間帯の電力使用を監視し、負荷平準化を図る。

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度		(2030年度)	
使用電気全体に占める非化石電気の比率	100.0	%		%		%	100	%

イ 計画期間 1 年度目（令和 6 年度）における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
kl	t-CO ₂

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 6 年度）における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(4) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

5	日
---	---

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

- ・吸収式冷凍機をヒートポンプ式モジュールチラーに換装。
- ・床上ファンコイルユニット84台を天井埋め込み型（温度制御可）に換装
- ・従来型の蛍光灯器具40w×2灯用1118台をLEDの4000ルーメン形に更新して、年間181,183kwh（推定）の電力を削減した。

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

- ・環境の日に合わせて環境月間を設けて、週に2回昼休みに省エネ推進の駐屯地一斉アナウンス、並びに、2週間に1回各部署の省エネ施策実施状況の点検を実施した。